

2023 年度
ミス・パリ・ビューティ専門学校
大宮校

自己評価報告

2024 年 4 月

学校法人ミスパリ学園
ミス・パリ・ビューティ専門学校
大宮校

2023年度 自己評価について

学校法人ミスパリ学園が運営するミス・パリ・ビューティ専門学校大宮校は、埼玉県さいたま市に2012年4月に開校した。本校の前身となるミスパリエステティックスクールは、29年の歴史を有し、エステティック教育においては、常に先進的な存在としてリードし続け、授業時間も300時間から1,000時間と増やすことにより、カリキュラムを充実させてきた。

専修学校として再スタートを切る際には、全国でもあまり類を見ない2年間で2,085時間という充実したカリキュラムを編成し、社会人として即戦力となる人材育成を行うことにより、有為な人材を関係業界だけでなく他分野にも多数輩出してきた。

また、学生がより勉学に意欲を持って取り組める教育環境を構築するため、2017年度からは選択コース制を導入している。

更に、エステティック部門だけでなく、厚生労働大臣の指定を受けた美容学科も併設し、総合的な美容の技術者を育成する専修学校を目指している。同学科は開校以来、美容師国家試験について高い合格率を維持しており、2019年度は合格率100%を達成した。今後も引き続き100%の合格率を目標に指導を行う。

また、学生のプロフェッショナルとしての資質を高めるため、企業の教育部による最新の技術習得や現役の美容師による実践的な教育プログラムを取り入れている。

本校の教育理念である「美しく聡明で品格あるプロフェッショナルの育成」を基本とし、教育内容の更なる充実を図り、技術だけでなく、社会人としての人間力を磨き、日本のみならず世界で活躍できるようカリキュラムを充実させるとともに教職員の質の向上を目指し、教育研修を続けている。

2023年度の自己評価の取り組みは以下のとおりである。

自己評価の目的は、本校に関する各項目を教職員が客観的に評価することにより、改善点を見出し、その結果に基づき、更に実践的な教育プログラムを充実させ、学生はもとより教職員の質の向上に資することである。

1. 評価実施期間

2023年4月1日～2024年3月31日

2. 実施方法

- (1) 校長以下、副校長、学年主任、教育課主任が中心となり、各教職員が連携して評価を行う。
- (2) 評価は「専修学校における学校評価ガイドライン」を参考にしている。
- (3) 評価は、年度終了後速やかに行い、年1回行うこととしている。
- (4) 評価結果は、学校関係者評価委員に報告するとともに、現状と今後の改善、解決に向けた取り組み等を公表することとする。
- (5) 職員会議にて項目毎に説明を行い、当日参加していない教員に対しては、後日個別にフィードバックを行った。

3. 自己評価の項目

- (1) 教育理念・目標 (2) 学校運営 (3) 教育活動 (4) 学修成果
- (5) 学生支援 (6) 教育環境 (7) 学生の受入募集 (8) 財務
- (9) 法令等の遵守 (10) 社会貢献・地域貢献

4. 評価項目に対する評価

評価は5段階とし、

5：良好 4：適切 3：ほぼ適切 2：やや不適切 1：不適切

以上

2023年度 ミス・パリ・ビューティ専門学校 大宮校 自己評価表

1. 学校の教育目標

本校の教育理念「美しく聡明で品格あるプロフェッショナルの育成」を念頭に、学校法人ミスパリ学園としての自覚と自負の下、「充実した教育課程」「学生獲得」「就職確保」の3本柱を全教職員の力で全うし、わが国トップクラスのトータルビューティの専門学校を目指す。

2. 本年度に定めたい重点的に取り組むことが必要な目標や計画

- 1) 教育の質の向上、魅力的で楽しく、充実した内容の授業を行う。講師の評価制度を確立する。
- 2) 募集定員の確実な達成を図る。
- 3) 学生の遅刻・欠席をなくし、進級率90%・就職率100%を達成する。
- 4) 学生の体力、人間力の向上を図る。
- 5) 働くことの意義を理解し、社会で活躍できる人づくりを行う。
- 6) 即戦力になる人づくりを行う。
- 7) 学園（姉妹校4校）の協力により、相乗効果を上げる取り組みを行う。

3. 自己評価

良好…5 適切…4 ほぼ適切…3 やや不適切…2 不適切…1

(1) 教育理念・目標

	評価項目	評価	前年度
1	学校のビジョン及びそれを実現するための方針を策定しており、かつ、教職員に理解されているか	4	4
2	特色ある学校づくりを進めるために、求められる仕事及び求められる人間性を明確にし、学校独自のカラーを出しているか	5	4
3	学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが、学生や保護者等に周知されているか	5	5
4	目標に対する評価を年度内に実施し、その結果を教職員に周知するとともに、次年度の目標につなげているか	5	4
5	教育目標、育成人材は学科等に対する社会のニーズに向けて方向付けられているか	5	5

取り組みと結果

- ・本校の理念・目的・育成人材像は、学校教育目標としてそれぞれの学科の特性も含めて明確に定めており、学生や保護者に対しては学校説明会や保護者会などを開催し、説明を行った。
- ・学校ホームページの改訂を行い、本校の理念や特色をより分かりやすく表示することで、本校に対する理解と浸透を促した。
- ・年度初めの全体職員会を開催し、外部講師や非常勤講師も含め、新年度の教育目標等の共有を図った。
- ・学生の就職先企業や業界関係団体との面談を行い、社会的ニーズの把握に努めた。

<ul style="list-style-type: none"> ・職業訓練校として第一線で活躍する現職者に講師を依頼し、業界で必要とされるスキルを身につける教育を行った。
課題 <ul style="list-style-type: none"> ・教育理念や目標の更なる浸透。 ・ISO や教育課程編成委員会等で指摘のあった評価や分析結果を基に、教育理念の実現に向けた施策の策定並びに遂行能力を向上させる。 ・社会ニーズの継続的な把握に注力する。
今後の改善策 <ul style="list-style-type: none"> ・各種評価結果や外部委員からの指摘を教職員全員で話し合い、活発な議論の場を設けることで、本校の魅力や改善点等を洗い出し、より良い学校運営を行うこと。 ・年度毎の教育成果分析を外部講師も含めて共有し、教職員の意識向上を促すこと。 ・業界関係団体との意見交換の場を定期的に設けることで、社会ニーズの継続的把握に努めること。

(2) 学校運営

	評価項目	評価	前年度
1	事業計画等に沿った運営方針が策定されているか	5	5
2	学校運営などに学生の意見が反映されているか	4	4
3	地域社会への貢献の一環として、学校施設を地元に開放しているか	5	4
4	地域との協力関係が確立されているか	5	4
5	運営組織や意志決定機能は、規則等において明確化されていて、有効に機能しているか	5	4
6	人事・給与等に関する規程等は整備されているか	5	4
7	教務・財務等の組織整備など意志決定システムは整備されているか	5	4
8	教職員の健康診断を実施しているか	5	5
9	各種システム化等により業務の効率化が図られているか	5	4
10	ホームページは、適宜更新し、見やすくしているか	5	5

11	学校評価を組織的に実施し、評価結果を教職員に周知するとともに、改善計画を策定しているか	5	4
12	学校運営及び評価の結果を学校関係者以外に、何らかの方法で公表しているか	5	4
<p>取り組みと結果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各年度の事業計画は前年度 10 月頃策定し、それに基づき学校運営を行っている。 ・学生アンケートを年 2 回実施し、得られた学生意見を学校運営の参考としている。また、この結果を基に全教職員と面談を行い、授業や指導方法の見直しを行っている。 ・各種委員会活動を通じて、学生の学校運営への参画を促している。 ・授業外業務については、業務分担や事務システムツールを導入し、効率化を図っている。 ・近隣通信制高校のスクーリングや「一恋（詳細後述）」のイベントを、施設を開放して行い、地域交流に貢献した。 ・評価結果や監査書類等は学校ホームページで毎年公表している。 			
<p>課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学生アンケートの内容・実施方法の見直し。 ・各種委員会活動の活発化。 ・授業外業務の更なる効率化。 ・地域社会との関係性の維持及び新たな交流関係の模索。 ・各種評価結果の学内共有と改善の実施。 			
<p>今後の改善策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学生アンケートを見直し、学生が意見要望を述べやすいものにする。 ・各種委員会活動に自主性を持たせ、学生が能動的に学校運営に携われるシステム作りを行うこと。具体的には、学級委員会の発足、放課後倶楽部の始動などを検討する。 ・地域ボランティアを再開すること。 ・教育課程編成委員会や学校関係者評価委員会の評価を元に、業界企業や学生のニーズを吸い上げ、より職業実践に即した授業内容の充実を目指すこと。 			

(3)教育活動

	評価項目	評価	前年度
1	教育課程は、教育理念・教育目標と一貫性がある内容になっているか	5	5
2	定期的に教育課程の評価を組織的に行い、時代の要請、変化にあったものに修正しているか	5	4
3	シラバス（授業計画書）は、学生が授業内容を理解しやすく、授業内容と一致しているか	4	4
4	効果的な授業運営を図るため、適切に時間割を調整しているか	5	5
5	授業内容や指導方法が学生レベルに合うよう工夫・改善しているか	5	5

6	学生に修了認定のための評価基準と方法を公表しており、かつ、評価は公平性・妥当性が保たれているか	5	5
7	評価結果による教員面接・指導が行われているか	5	4
8	未修了科目の原因分析を教員側と学生側とで実施し、対応策を講じているか	5	5
9	資格対策に個々の学生にあった指導・援助を実施するなど、教職員一丸となって取り組んでいるか	5	5
10	人材育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか	5	4
11	教職員のスキルアップのための研修を行っているか	5	4
12	研修や出張で学会等に参加した成果を他の教職員に還元する仕組みがあるか	4	4
13	教職員の授業を他の教職員、または外部関係者が参観、講評できる制度があるか	5	4
14	教職員による自己評価が定期的に行われているか	5	5
15	インターンシップ等を利用して、職業選択について深く考える契機を提供出来ているか	5	5
16	関連分野の企業・関係施設や業界団体等との連携によりカリキュラムの作成・見直し等が行われているか	5	5
<p>取り組みと結果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年2回の教育課程編成委員会では、教育の質が年々上がっているとの評価をいただいた。 ・トータルビューティ学科のカリキュラムを社会のニーズに合わせて、最新の技術実習やビジネス実務時間を増やし、更なるプロフェッショナル人材の育成に注力できるよう刷新した。 ・学生ポータルを導入し、ポータル上でシラバスの公開や授業に関する質問を受け付けることで、学生の学習補助に役立てている。ただし、まだ活用頻度が低い。 ・補習や補講を計画的に実施し、履修不足等の予防を行った。 ・インターンシップ制を導入し、学生の職業理解を促している。 			
<p>課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学生ポータルの有効活用 ・継続的に研修に参加できる環境を作り、教員の人間力向上及び教育現場での指導方法や技術の向上を目指す。 ・教職員ミーティングを定期開催し、より密に問題共有を行う。 ・優秀な教職員の補充 			

<ul style="list-style-type: none"> ・外部の研修などに参加した内容について、他教職員への情報共有を行う。
<p>今後の改善策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学生の質問や問題解決にスピーディに対応するため、学生・教職員とも、1日1回学生ポータルをチェックすることを習慣づけ、学生ポータルの活用頻度を上げる。 ・外部研修への参加機会を作り、その内容を自校開催の研修や教職員会議（議事録）を通して教職員全体に共有することで、更なる教育の質向上を図ること。 ・教職員同士の意見交換の場を学科・学年ごとに細かに設け、学生指導の悩みや問題点の解決に取り組むシステムを作ること。 ・優秀な教職員を継続的に確保するシステムを構築すること。関連企業との連携強化。 ・インターンシップ受入れ先の確保、及びインターンシップ以外で学生の職業理解の機会となるようなイベントを増やすこと。（就職フェアの積極的活用、オンライン合同説明会への参加等）

(4) 学修成果

	評価項目	評価	評価
1	学生の就職に関する目標を設定したか。またその成果は十分か	5	5
2	学生の資格取得目標を設定し、その結果検証をおこなっているか	4	4
3	中途退学者を少なくする工夫・努力をしているか	4	4
4	卒業生の就職先での評価を把握し、問題点を明確にしているとともに、その改善策を講じているか	4	4
<p>取り組みと結果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各学科共に美容関連企業への就職率 100%達成。（就職希望者） ・主要資格取得率 100%の目標は未達。要因として、座学が苦手な学生に対する学習支援が不足していた。 ・中途退学者を減らす施策として入学前の学校説明を強化。登校習慣のない学生には三者面談を行い、学生の生活面での支援を依頼した。 ・就職先企業（1社）と卒業生評価に関するミーティングを行い、大宮校卒業生の特長や問題点、企業が求める人材像等をご教示頂いた。これを基にキャリア教育の内容をブラッシュアップし、企業が求める人材育成に努めた。 			
<p>課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・就職率・資格取得率 100%の達成。 ・座学が苦手な学生への学習支援の強化。 ・働く意義の教育に力を入れ、就職を希望しない学生や就職後の離職率の低減を図る。 ・中途退学者の減少。 ・卒業生の就職後状況についての情報収集システムを構築する。 			
<p>今後の改善策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・キャリア教育の導入によって、働く意義や将来のキャリアプラン等を学生自身に考えさせ、自立した人材育成に取り組むこと。 			

- ・座学が苦手な学生を対象にした補習授業、自主勉強補助教材を用意すること。
- ・授業体験会を開催し参加してもらうことで、入学後のミスマッチを無くして進路変更を減少させ、退学防止につなげること。
- ・三者面談を積極的に設け、学生に対するご家族の継続的な支援をお願いすること。
- ・卒業生や就職先企業との情報交換を継続して行い、日々の教育活動や就業者サポートに活かし、離職率の低減に努めること。
- ・関連会社と連携した転職、復職制度の活用により、卒業生が美容業界で活躍できるようサポートをすること。

(5) 学生支援

	評価項目	評価	前年度
1	学生の心身面での健康管理体制が整っているか	5	4
2	学生生活、進学、就職に関して学生の相談に十分応じているか	5	5
3	学生のクラブ活動やボランティア活動などの自主活動を支援しているか	4	4
4	災害など非常時の危機管理体制が整っているか	5	5
5	奨学金等の経済的支援があるか	5	5
6	学費減免、学費分納制度があるか	5	5
7	学生寮を保有、または紹介をしているか	5	5
8	卒業生への再教育、または就職支援体制はあるか	5	5
9	社会人のニーズを踏まえた教育環境は整備されているか	5	5

取り組みと結果

- ・学生支援については様々な角度からの支援が行えるよう、体制を整えている。
- ・技術の上達とやる気の維持のため、実習目標表の活用を始めた。上達したいという意欲が高くなり、出席率や授業への取組姿勢の向上に繋がった。
- ・男子学生の増加に伴い、学校生活環境の整備を図った。
- ・適切な就職支援を行った結果、就職希望者全員が正社員として内定を頂く事が出来た。他方で、就職を希望しない学生や美容以外（アパレル等）希望の学生が増加した。
- ・災害時連絡システムの導入について、検討を始めた。

<ul style="list-style-type: none"> ・国の修学支援制度や奨学金に関する説明会を充実させ、多くの学生の申請を行った。 ・関連会社が運営する人材派遣サービス「BWP」と連携し、卒業生の再就職支援を行っている。
<p>課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学生支援体制の更なる強化を目指し、学生を取り巻く環境や時代に合わせた柔軟な対応を行う。 ・メンタルヘルス対策の強化。 ・学生自主活動の支援。 ・男子学生や性的少数者への環境整備の検討。 ・就職を希望しない学生へのフォロー体制の確立（卒業後、年単位での支援が必要） ・災害時連絡システムの導入。 ・社会人や留学生向けの教育プランの設定
<p>今後の改善策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学生の精神ケアに関する教員研修を行い、学生の心的相談に、的確に応じるようにすること。また、必要に応じ、外部の医療機関への紹介を行う。 ・新たに学級委員会、放課後倶楽部を発足し、他学年交流を活発化させること。 ・男子学生や性的少数者への環境整備として、制服選択やトイレ・更衣室使用について検討を始めること。 ・就職支援の強化。働く意義への理解を深める授業を導入すること。 ・災害時連絡システムの内容・費用等の精査を行い、早めの導入を検討すること。 ・修学支援新制度（高等教育無償化学修支援制度）や各種奨学金支援制度を活用し、金銭的な理由による入学辞退や退学を防止すること。 ・卒業生との連絡手段を確立し、社会人ニーズの積極的な収集を行うこと。

(6) 教育環境

	評価項目	評価	前年度
1	教育目標達成に必要な施設、設備及び新しい教材が整っており、活用されているか	5	4
2	施設・設備等の定期点検、補修等について適切に対応しているか	5	4
3	教職員・学生に防災研修・教育を行っているか	5	5
4	学校行事の運営等に学生を積極的に参画させているか	5	5

取り組みと結果

- ・学校設備や教材については毎年度見直しを行っている。2023年度は原料費高騰による教材内容や教材費の見直し、Wi-Fi環境の整備、OA機器の新調などを行った。
- ・日々の設備点検に加え、隔月での業者による建物点検を導入している。2023年度は消防設備の補修を行った。
- ・災害時に必要な備蓄品の整備・管理を継続して行っている。
- ・年2回の防災訓練を実施し、災害時の対応や避難経路の確認等を行った。また同時に、不審者対応マニュアルの確認も行っている。

<ul style="list-style-type: none"> ・クラス運営についてはクラス委員を中心に、学生同士の話し合いによって行っている。また、学校行事ごとに学生実行委員会を設置し、活動を通じて学生の自主性を育てる指導を行っている。
課題 <ul style="list-style-type: none"> ・教育目標に合わせた定期的な教材・備品の見直し。 ・施設・設備の定期点検の強化。 ・不審者対応訓練の実施。 ・非常時のご家族への連絡手段の確保と協力体制の確立。
今後の改善策 <ul style="list-style-type: none"> ・物価の高騰が続いているため、次年度以降の教材原料費の変動に注視すること。 ・日々の設備・備品点検に加え、定期的な建築業者による点検を継続し、適宜修繕を行うこと。 ・危機管理マニュアルを策定し、非常時における学生・教職員の対応や避難経路の確認を行うこと。

(7) 学生の受入募集

	評価項目	評価	前年度
1	学生募集計画があるか。また成果は十分か	4	5
2	学校案内等には育成人材像が明示されているか	5	5
3	学校案内等には目指す資格・検定試験等が明示されているか	5	5
4	学校案内等には学費・教材費が明示されているか	5	5
5	入学（予定）者に対し学習、学生生活のためのオリエンテーションは行われているか	5	5
取り組みと結果 <ul style="list-style-type: none"> ・学生募集計画に基づき募集活動を行ったが、18歳人口減少の影響が想定より響き、定員を充足できなかった。 ・『+LETTER』の導入により、本校希望者へタイムリーな情報提供が可能となった。 ・本校ホームページや進学ガイダンス等にて、本校の教育方針や教育成果について正確に情報公開を行い、見学者が適切に進路選択できるようにしている。 ・卒業生の活躍や就職先での評価を教育成果として公表することにより、見学者が将来像をイメージしやすくした。 			
課題 <ul style="list-style-type: none"> ・長期的な日本の少子化問題を受け、募集定員充足に向けて、より中長期的な計画が必要。 ・見学者ニーズの的確な情報収集と分析を行い、より魅力的なイベントを開催する。 ・ビューティ&ウエルネス専門職大学との違いを明確に示す。 ・入学後の進路変更による退学率減少を目指し、募集活動における説明内容の改善を行う。 ・募集担当者と教務職員の連携強化。 			

今後の改善策

- ・ SNS やリモートアクセスを活用した募集活動を拡充すること。
- ・ 資料請求後の LINE 登録を推奨し、見学者個々に的確な対応を行うこと。
- ・ 入学者アンケートの分析を行い、入学検討者の希望に則した効果的な募集活動を実施すること。
- ・ ビューティ&ウエルネス専門職大学と密に連携し、見学者の希望に合った進路を提示すること。
- ・ 各実習担当教員が実際に施術を披露し、現場の実体験を伝えることで、よりその職種への理解を深めてもらうよう取り組むこと。
- ・ 入学後の進路変更を防ぐ為、入学希望者には入学前のオープンキャンパスや学校見学への参加を奨励し、本校の教育内容等について、より理解を深めてもらえるように分かりやすく説明すること。

(8) 財務

	評価項目	評価	前年度
1	予算計画、年間事業計画を策定し、適正な予算の執行・進捗管理を行っているか	5	5
2	財務について会計監査が適正に行われているか	5	5
3	財務情報公開の体制整備はできているか	5	5
<p>取り組みと結果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 適正な財務状況を維持している。 ・ 監査書類や帳簿類は常に適正に作成されており、学校ホームページにて適切に情報公開されている。 ・ 職員備品等は関連企業の引き上げ品を利用する等、リサイクルに積極的に取り組み、教職員全員が経費の削減に取り組んだ。 			
<p>課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 適正な財務状況を継続。 ・ 教職員各自がコスト削減意識を高め、引き続き無駄のない学校運営を図る。 			
<p>今後の対応策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 決算、予算、事業計画を明確に把握し、経理担当者による出納状況管理を強化すること。 ・ 引き続き、教職員全員がコストパフォーマンスを意識した行動を心掛けること。 			

(9) 法令等の遵守

	評価項目	評価	前年度
1	法令や専修学校設置基準を遵守しているか	5	5
2	学生指導において、学生に対して人権への配慮がされているか	5	5

3	学生、非常勤講師や教職員の個人情報の保護について、考慮しているか	5	5
4	自己点検・自己評価を定期的実施し、問題点の改善につとめているか	5	5
5	自己評価結果を外部に対して公表しているか	5	5
<p>取り組みと結果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・法令や専修学校設置基準を含め、労働環境基準や人権についても十分に配慮した学校運営を行っている。 ・SNSの利用による個人情報漏洩の危険性を学び、情報管理意識を身に付ける教育を行った。 ・自己評価結果及び学校評価委員会の評価結果を学校ホームページで公開している 			
<p>課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学生への法令、人権教育の強化。 ・SNSの正しい使い方指導や個人情報管理の教育を徹底。 			
<p>今後の対応策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・在校生及び教職員に対する法令遵守の更なる意識付けを強化すること。 ・個人情報管理については、ISO9001及び関連会社のセキュリティ対策を基に実践、継続すること。 			

(10) 社会貢献・地域貢献

	評価項目	評価	前年度
1	学校の実習施設を活用するなど高等学校の職業教育の実施に協力・支援しているか	5	4
2	環境問題など重要な社会問題の解決に貢献するための活動を行っているか	4	4
3	受け入れ、在籍管理等において適切な手続き等がとられているか	5	5
4	学習成果が国内外で評価される取組を行っているか	5	4
<p>取り組みと結果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・外部企業による一恋（『一生美容に恋する会』）の企画に埼玉県代表校として参加。小中学生などの低学年層に向けて美容の仕事を紹介するなど、美容業界のすそ野を広げる活動に取り組んだ。 ・学校法人 佐藤学園様への教室貸出契約を提携。地域の高等教育に貢献した。 			
<p>課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「一恋」活動についての広報を強化し、低学年層から美容業界への理解と関心を深める。 ・中高生の社会科見学や職業インターンシップ受け入れを継続する。 			

- ・NPO日本スパ・ウェルネス協会認定校として、協会の活動内容や目的の周知に努め、美容業界の更なる健全化と発展に貢献する。

今後の改善策

- ・「一恋」活動について、中学校・高等学校へのチラシ配布及びSNSを活用した告知を行い、参加目標数30名を達成すること。
- ・本校の教育方針や在校生の様子を学校ガイダンスや学校訪問等の機会に広報することで、中高生の進路学習に活用していただくこと。
- ・人権や環境問題、SDGs等への理解を深める為の授業や講義の実施を検討すること。